

## 新見市観光施設事業経営戦略

団 体 名 : 新見市

事 業 名 : 観光施設事業

策 定 日 : 令和 4 年 3 月

計 画 期 間 : 令和 4 年度 ~ 令和 13 年度

※複数の施設を有する事業にあつては、施設ごとの状況が分かるよう記載すること。

## 1. 事業概要

## (1) 事業形態

法適(全部適用・一部適用) 非 適 の 区 分	非 適	事 業 開 始 年 度	昭 和 34 年 度
事 業 の 種 類	そ の 他	施 設 名	満 奇 洞
職 員 数	1 人		
事 業 の 内 容	観 光 鍾 乳 洞「満 奇 洞」等 の 管 理 運 営		
民 間 活 用 の 状 況	ア 民 間 委 託	管 理 運 営 及 び 環 境 美 化 整 備 等 を 民 間 に 委 託 し て い る。	
	イ 指 定 管 理 者 制 度	実 施 な し。	
	ウ PPP・PFI	実 施 な し。	

## (2) 料金形態

料金の概要・考え方	新見市満奇洞管理条例において入洞料を定めている。 ■大人：1,000円(20人以上：900円、50人以上：850円、100人以上：800円) ■高校生：1,000円(20人以上：800円、50人以上：750円、100人以上：700円) ■中学生：800円(20人以上：700円、50人以上：650円、100人以上：600円) ■小人：500円(20人以上：400円、50人以上：350円、100人以上：300円)		
料金改定年月日 (消費税のみの改定は含まない)			

## (3) 現在の経営状況

年間利用状況 ※単位を明記すること ※過去3年度分を記載	R2	43,799人	R1	50,693人	H30	36,377人
経常収支比率 (又は収益的収支比率) ※過去3年度分を記載	R2	119.93%	R1	140.34%	H30	139.50%
経費回収率 ※過去3年度分を記載	R2	78.14%	R1	95.86%	H30	64.80%
他会計補助金比率 ※過去3年度分を記載	R2	6.47%	R1	0.00%	H30	0.00%

【上記の収益、資産等の状況等を踏まえた現在の経営状況の分析】

収益的収支比率については、他会計からの繰入金等がないため健全な状態が保てている。経費回収率については、平成30年度は、平成30年7月豪雨災害の影響により営業休止に陥ったため、入洞料収入が減少し、他の年度に比して低くなっている。令和元年度は、直近5年間で最多の入洞者数であったため、大幅に回復した。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により入洞料収入の減少が想定されたため、当初予定していた事業を中止し経費を削減したことから大幅な減少には至らなかった。

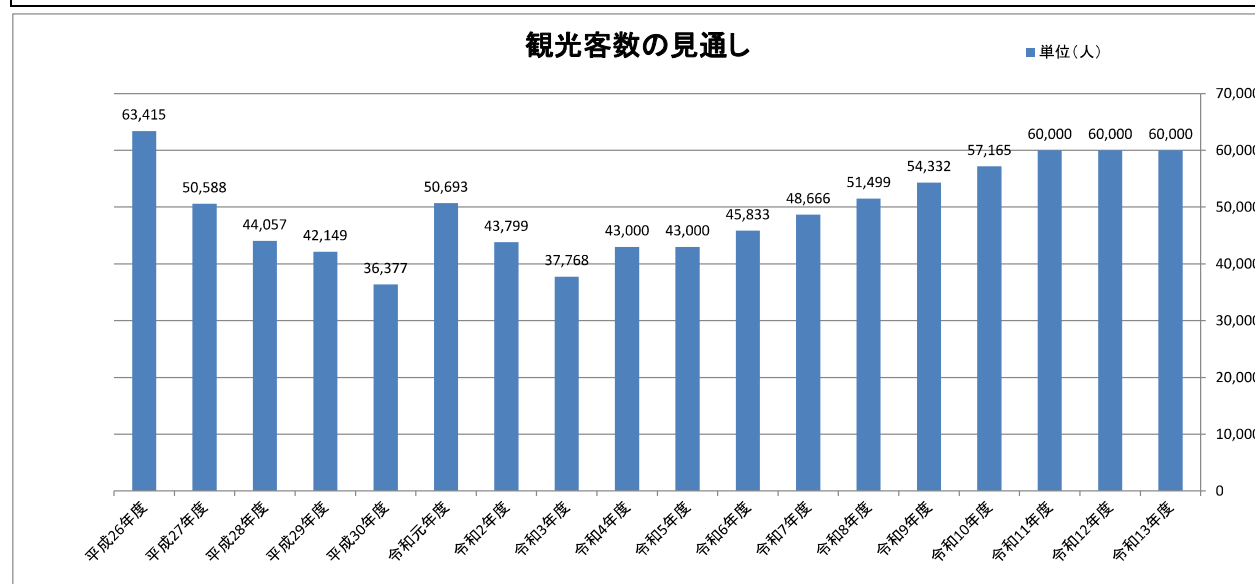
令和2年度においては、新型コロナウイルス感染症対策事業としてトイレの改修事業に補助金を充当したため他会計から本事業会計への繰入金が生じたが、今後の経営においては、これまでと同様に他会計からの繰入金等に依存せず、入洞料収入を主とした事業を展開していくことを原則とする。

## 2. 将来の事業環境

### (1) 宿泊客数(観光客数)の見通し

新型コロナウイルス感染症による影響は今後も続くことが想定されるため、令和6年度までの年間来洞者数は令和2年度程度と想定している。その後は、社会情勢を見極めながら情報発信やソフト事業を展開し緩やかな来洞者数の増加を見込んでいる。

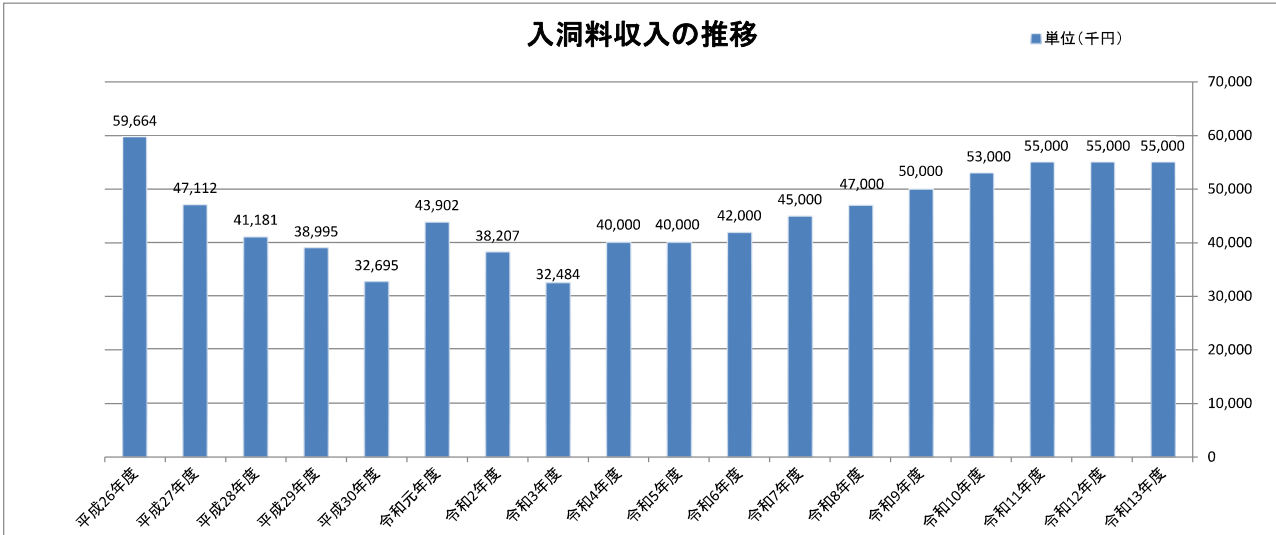
第3次新見市総合計画において、観光分野については令和11年度を目標年次として、満奇洞を含めた主要観光施設入場者数について、36万人を目標値として定めている。新型コロナウイルス感染症による影響を受けた令和2年度及び、平成30年7月豪雨災害による影響を受けた平成30年度を除いた直近5年間の満奇洞の観光客数は新見市内の主要観光施設の入り込み客数全体の16.5%を占めていることから、令和11年度には目標値36万人の16.5%に相当する6万人を見据え、来洞者の増加を図る。



(2) 料金収入の見通し

「新見市満奇洞管理条例」に規定する料金体系を維持し、「(1)周辺観光客数の見通し」における観光客数の伸び率と同様に料金収入についても推移するものと考えている。現在の見込みでは、健全な運営状況が保てると想定されるため、社会情勢の大きな動きがない限りは、現在の料金体系を維持するものとする。

入洞料収入の推移



(3) 施設の見通し

観光施設については、他の公共施設とは異なり観光誘客を目的とするため、魅力に富んだ快適な施設となるよう、維持管理することが求められる。また、満奇洞においては、歴史ある自然の産物として適正に維持管理することも求められる。そのため、経年劣化による修繕を実施する場合には、観光誘客の促進に繋がること、安全性の確保ができること、歴史ある自然の産物を後世に適正に伝えることを目的として、必要に応じて適正に実施する。なお、下記に示す満奇洞管理事務所については、職員が滞在し連絡機能を備えている昭和61年に建築された施設であり、新見市公共施設機能再配置計画において、施設の長寿命化を図るため目標使用年数が到来する令和9年に大規模改修を行う計画としている。

【参考】新見市公共施設機能再配置計画(抜粋)

施設名	建物名	延床面積 (㎡)	構造	建築年	対策工事の目安(理論値)			経過点	劣化点	総合評点
					中規模改修年	大規模改修年	建替年			
満奇洞	事務所	84.80	S造	昭和61年	—	令和9年	令和29年	33	24	57

※総合評点 = (築年数 × 耐用年数係数) + 劣化度

- 総合評点 60点未満 : 優先度低
- 総合評点 60点以上80点未満 : 優先度中
- 総合評点 80点以上 : 優先度高

表 耐用年数係数

構造	耐用年数係数
木造(W造)	1.5
非木造(S造、CB造、RC造、SRC造)	1

表 目標使用年数

構造	目標使用年数
木造(W造)	40
鉄骨造(S造)、コンクリートブロック造(CB造)	60
鉄筋コンクリート造(RC造)、鉄骨鉄筋コンクリート造(SRC造)	60
長寿命化対策済	80

#### (4) 組織の見通し

現場の管理運営は委託により実施しており、必要最低限の費用で適正な管理ができているため、現状を継続する。また、担当職員については、現状適正な人員配置が行えているものと考えているため、今後も収支状況を勘案しながら、適正な人員配置を継続する。

### 3. 経営の基本方針

満奇洞に訪れる観光客は、5月から9月に集中しており、この繁忙期において自然災害等、営業に支障を来す事象が発生した場合には、年間来洞者数に大きな影響を与える状態にある。年間を通じて安定的な収入を得て、一層健全な運営を行うためにも、閑散期となる下半期の来洞者数を増加させることが重要である。そのため、戦略的な情報発信、新たな観光客層の獲得を目的としたイベント開催など、閑散期にも誘客が促進できる運営を行う。  
また、国内人口の減少による観光客数全体の減少が想定されることから、観光客数の底上げを図るために外国人観光客の誘客も進める必要があるが、国内での誘客を促進した上で、社会情勢を考慮しながら外国人観光客の誘客にも努める。

### 4. 投資・財政計画(収支計画)

(1) 投資・財政計画(収支計画)：別紙のとおり

(2) 投資・財政計画(収支計画)の策定に当たった説明

#### ① 収支計画のうち投資についての説明

目 標	観光施設としての価値・魅力を向上させ、歴史ある自然の産物を後世に引き継ぐため、設備については、適正な維持修繕等を行う。なお、令和9年度に管理事務所の長寿命化対策に投資を行う。
-----	---

満奇洞の運営において、大きな魅力となっている洞内のLED照明設備等の維持修繕や、自然を活用した観光施設であるため天災等があっても入洞者の安全が確保できるよう修繕等を行う。また、新見市公共施設機能再配置計画において、令和9年度に管理事務所の長寿命化改修を予定しているため、現状を十分に把握した上で必要な修繕を行う。

#### ② 収支計画のうち財源についての説明

目 標	入洞料収入での運営を原則とし、繰越金等を積み立てた観光鍾乳洞整備基金等を必要に応じて活用し、他会計等に依存しない健全な運営を行う。
-----	---

例年発生する経常経費については、現在入洞料収入を主な財源としており、余剰金については観光鍾乳洞整備基金に積み立てている。臨時的に発生する大規模な設備投資等、入洞料収入のみで賄えない投資については、現在観光鍾乳洞整備基金を財源として実施しており、他会計等に依存しない運営が実施できているため、今後も健全な運営の継続に努める。

③ 収支計画のうち投資以外の経費についての説明

令和11年度の入洞者数を6万人とし、その後令和13年度まで6万人を継続することを目標としており、目標達成には、閑散期となる下半期の来洞者数を増加させることが重要であると考えているため、社会情勢を考慮しながら、戦略的な情報発信や誘客に効果的なソフト事業等を実施する。  
また、現在施設の管理運営業務及び環境美化業務等の必要な業務については、委託により実施しており、円滑で適正な運営が継続できているため、今後もこれまでと同様に継続する。

(3)投資・財政計画(収支計画)に未反映の取組や今後検討予定の取組の概要

※投資・財政計画(収支計画)に反映することができなかった検討中の取組や今後検討予定の取組について、その内容等を記載すること。  
また、(1)において、純損益(法適用)又は実質収支(法非適用)が計画期間の最終年度で黒字とならず、赤字が発生している場合には、赤字の解消に向けた取組の方向性、検討体制・スケジュールや必要に応じて経費回収率等の指標に係る目標値を記載すること。

① 今後の投資についての考え方・検討状況

民間活用	観光誘客を促進するため、ソフト事業を民間へ委託するなど、民間のノウハウを活用し、より一層の誘客促進を図る。
投資の適正化	集客力が高められる施設改修について、社会情勢及び収支状況に応じて検討する。
その他の取組	特筆すべき事項なし。

② 今後の財源についての考え方・検討状況

料金	現状を維持することとするが、大きな社会情勢の変化があった場合は検討する。
稼働率・利用者数	他団体が主体となって実施する大型観光キャンペーン等が実施される場合には、その誘客効果を活用しながら入洞者数の増加を図ることができる事業を検討する。
企業債	特筆すべき事項なし。
繰入金	令和9年に実施する満奇洞管理事務所の大規模改修においては、観光鍾乳洞整備基金を繰り入れることとしている。原則、入洞料金収入を財源として運営することとしており、他会計からの繰り入れには依存しない運営を行う。
資産の有効活用等による収入増加の取組	特筆すべき事項なし。
その他の取組	特筆すべき事項なし。

③ 投資以外の経費についての考え方・検討状況

委託料	施設の管理運営業務及び環境美化業務等の必要な業務については、委託により実施しており、現在円滑で適正な運営が継続できているため、今後もこれまでと同様に継続する。
管理運営費	施設を安全・適正に運営できるよう、駐車場整理や環境美化に係る経費なども含めて、必要最低限の管理運営費を計上する。
職員給与費	収支状況及び社会情勢を考慮した職員配置を行う。
その他の取組	特筆すべき事項なし。

## 5. 公営企業として実施する必要性など

事業の意義、提供するサービス自体の必要性	満奇洞は、本市の特色であるカルスト地形に位置し、岡山県の天然記念物に指定されていると同時に、観光資源としての価値が高い施設である。また、本市の特色ある自然の魅力を観光という視点で発信する重要な拠点施設であり、本市を代表する主要な観光施設の一つにもなっていることから、本市南東エリアの地域経済の振興にも大きく寄与している。
公営企業として実施する必要性	満奇洞は、本市の特色であるカルスト地形に位置し、岡山県の天然記念物に指定されていると同時に、観光資源としての価値が高い施設である。また、地域の協力があり、地域との密接な関係により運営が成り立っていることから、営利主義による経営では運営が困難になると考えられる。

## 6. 経営戦略の事後検証、改定等に関する事項

経営戦略の事後検証、改定等に関する事項	本経営戦略は10年間の計画としているが、観光に関する事業は社会情勢の影響を多分に受け、目まぐるしく変化する性質を有する事業であることから、常に社会情勢の動向に着目し、5年を目途に適切な検証を行う。なお、決算が公表された後、収支状況について本経営戦略との大きな乖離が見られ後年に影響が出てくると想定される場合は、再度検証し、内容の修正を行う。
---------------------	--



